

2-2. 被害の状況

回答者の受けた被害の状況として、加害者の属性、被害の時期、被害の継続期間、被害時の職業、被害時の同居状況、けが・後遺症の状況について分析する。

(1)加害者について

ア. 加害者との関係

加害者との関係について、犯罪被害類型別にみると、配偶者暴力では「配偶者、元配偶者」(84.2%)、ストーカーでは「職場、アルバイト先の関係者、通っていた学校の関係者」(24.0%)、「全く無関係の人、知らない人」(23.2%)、「交際相手、元交際相手」(20.8%)、「知人、友人」(15.2%)、児童虐待では「父」(50.5%)、「母」(27.5%)、交通事故、性的な被害、財産被害、暴力被害では「全く無関係の人、知らない人」(それぞれ88.5%、72.3%、50.4%、32.1%)との回答比率が高い(図表2-1)。

図表 2-1 犯罪被害類型別、加害者との関係【SC1/SC3、Q3】

	全体	父	母	継父	継母	母の交際相手	父の交際相手	兄弟姉妹	子
犯罪被害者等	819	68 (8.3%)	33 (4.0%)	4 (0.5%)	5 (0.6%)	0 (0.0%)	2 (0.2%)	10 (1.2%)	2 (0.2%)
財産被害	139	5 (3.6%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)
配偶者暴力	114	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ストーカー行為等	125	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
児童虐待	109	55 (50.5%)	30 (27.5%)	2 (1.8%)	4 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)
性的な被害	119	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)
交通事故	104	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
暴力被害	109	5 (4.6%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (6.4%)	2 (1.8%)

	祖父母	配偶者、元配偶者	交際相手、元交際相手	職場、アルバイト先の関係者、通っていた学校の関係者	知人、友人	SNSで出会った人	全く無関係の人、知らない人	わからない	その他
犯罪被害者等	4 (0.5%)	108 (13.2%)	45 (5.5%)	53 (6.5%)	43 (5.3%)	16 (2.0%)	315 (38.5%)	79 (9.6%)	32 (3.9%)
財産被害	0 (0.0%)	1 (0.7%)	2 (1.4%)	5 (3.6%)	5 (3.6%)	5 (3.6%)	70 (50.4%)	38 (27.3%)	4 (2.9%)
配偶者暴力	0 (0.0%)	96 (84.2%)	6 (5.3%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	4 (3.5%)	2 (1.8%)
ストーカー行為等	1 (0.8%)	2 (1.6%)	26 (20.8%)	30 (24.0%)	19 (15.2%)	6 (4.8%)	29 (23.2%)	8 (6.4%)	3 (2.4%)
児童虐待	3 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	5 (4.6%)	5 (4.6%)
性的な被害	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	5 (4.2%)	9 (7.6%)	5 (4.2%)	86 (72.3%)	5 (4.2%)	5 (4.2%)
交通事故	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	92 (88.5%)	7 (6.7%)	2 (1.9%)
暴力被害	0 (0.0%)	8 (7.3%)	11 (10.1%)	10 (9.2%)	6 (5.5%)	0 (0.0%)	35 (32.1%)	12 (11.0%)	11 (10.1%)

【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

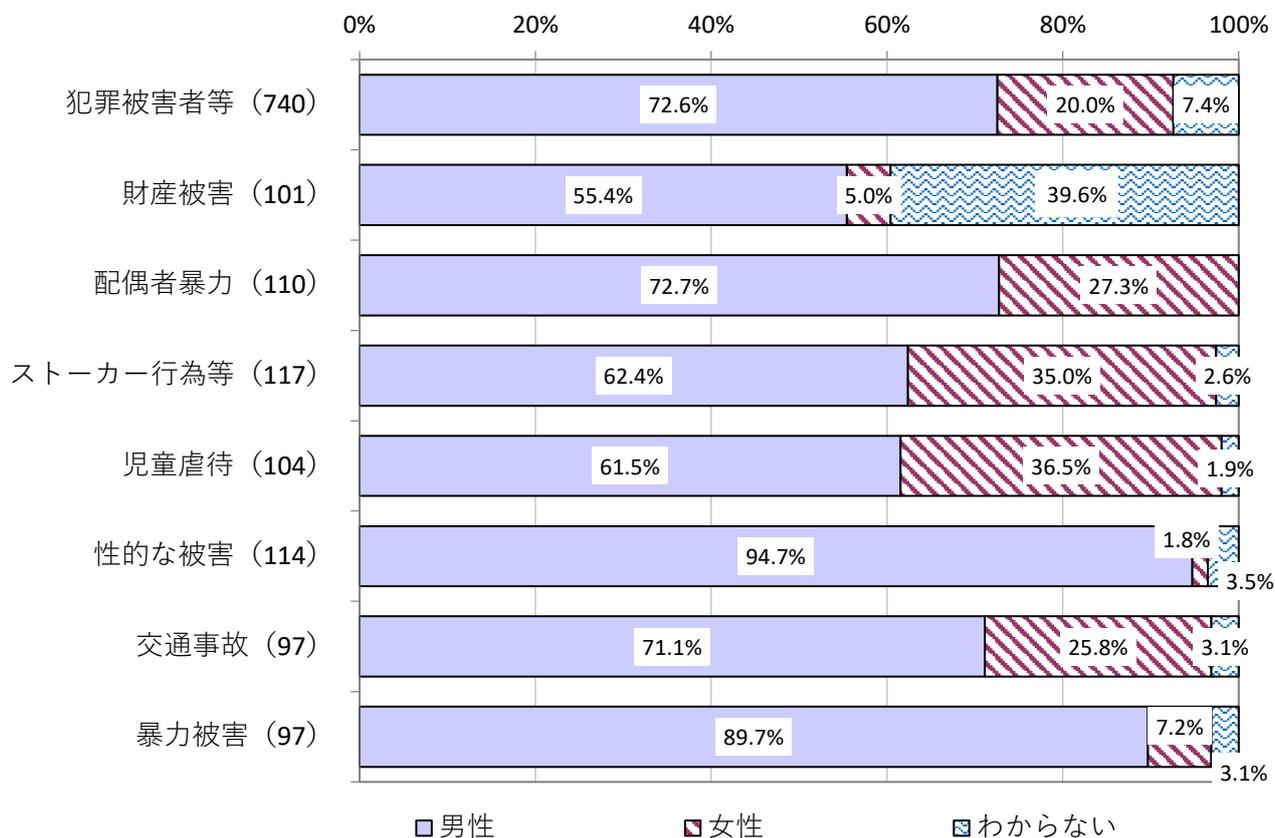
		全体	父	母	継父	継母	母の交際相手	父の交際相手	兄弟姉妹	子
性的な被害	痴漢等	90	0 (0.0%)							
	無理矢理性交	29	1 (3.4%)	0 (0.0%)	1 (3.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.4%)	0 (0.0%)
交通事故	けが	96	0 (0.0%)							
	死亡	8	0 (0.0%)							
暴力被害	けが	96	4 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (6.3%)	2 (2.1%)
	死亡	13	1 (7.7%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)

		祖父母	配偶者、元配偶者	交際相手、元交際相手	職場、アルバイト先の関係者、通っていた学校の関係者	知人、友人	SNSで出会った人	全く無関係の人、知らない人	わからない	その他
性的な被害	痴漢等	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.2%)	2 (2.2%)	1 (1.1%)	78 (86.7%)	4 (4.4%)	3 (3.3%)
	無理矢理性交	0 (0.0%)	1 (3.4%)	0 (0.0%)	3 (10.3%)	7 (24.1%)	4 (13.8%)	8 (27.6%)	1 (3.4%)	2 (6.9%)
交通事故	けが	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	87 (90.6%)	6 (6.3%)	1 (1.0%)
	死亡	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	5 (62.5%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)
暴力被害	けが	0 (0.0%)	8 (8.3%)	11 (11.5%)	10 (10.4%)	5 (5.2%)	0 (0.0%)	33 (34.4%)	10 (10.4%)	7 (7.3%)
	死亡	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	2 (15.4%)	2 (15.4%)	4 (30.8%)

イ. 加害者の性別

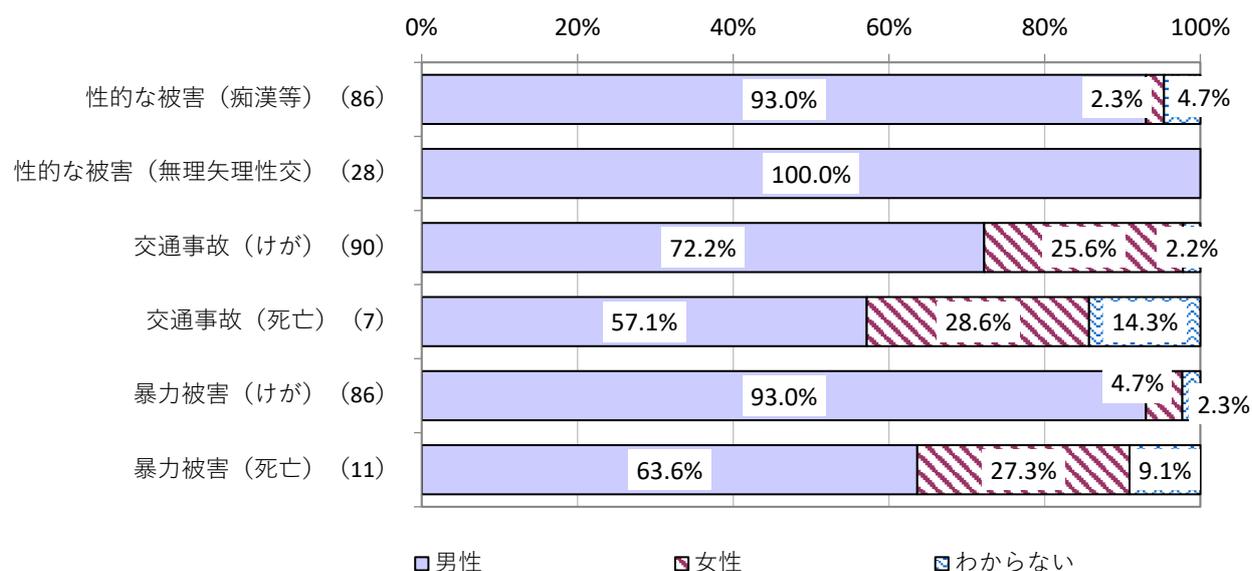
加害者の性別について、犯罪被害類型別にみると、全ての類型において男性が多いが、財産被害では「わからない」(39.6%)が多く、児童虐待、ストーカーでは女性も比較的多い(それぞれ36.5%、35.0%) (図表2-2)。

図表 2-2 犯罪被害類型別、加害者の性別【SC1/SC3、Q4】



※対象：Q3（加害者との関係）で「わからない」と回答した方（79人）を除く。

【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



(2)被害の時期

ア. 被害時の年齢

回答者又は家族が被害にあった時（被害が長期にわたって継続している場合には、被害が始まった時）の年齢について、犯罪被害類型別にみると、財産被害は23～29歳、40代（それぞれ20.9%）、配偶者暴力は30代（31.8%）、ストーカーは19～22歳（22.4%）、児童虐待は7～12歳（44.3%）、性的な被害は16～18歳（24.8%）、交通事故は30代（27.4%）、暴力被害は23～29歳（27.2%）との回答が最も多くなっている（図表2-3）。

図表 2-3 犯罪被害類型別、被害時の年齢【SC1/SC3、Q1】

	全体	0～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	19～22歳	23～29歳	30代	40代	50代	60歳以上
犯罪被害者等	641	39 (6.1%)	53 (8.3%)	38 (5.9%)	48 (7.5%)	74 (11.5%)	108 (16.8%)	94 (14.7%)	99 (15.4%)	47 (7.3%)	41 (6.4%)
財産被害	110	0 (0.0%)	1 (0.9%)	3 (2.7%)	7 (6.4%)	16 (14.5%)	23 (20.9%)	17 (15.5%)	23 (20.9%)	11 (10.0%)	9 (8.2%)
配偶者暴力	88	2 (2.3%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	1 (1.1%)	2 (2.3%)	19 (21.6%)	28 (31.8%)	23 (26.1%)	5 (5.7%)	7 (8.0%)
ストーカー行為等	107	0 (0.0%)	1 (0.9%)	3 (2.8%)	7 (6.5%)	24 (22.4%)	20 (18.7%)	17 (15.9%)	23 (21.5%)	4 (3.7%)	8 (7.5%)
児童虐待	70	28 (40.0%)	31 (44.3%)	7 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	2 (2.9%)
性的な被害	101	5 (5.0%)	14 (13.9%)	17 (16.8%)	25 (24.8%)	16 (15.8%)	10 (9.9%)	1 (1.0%)	4 (4.0%)	6 (5.9%)	3 (3.0%)
交通事故	73	2 (2.7%)	2 (2.7%)	3 (4.1%)	3 (4.1%)	7 (9.6%)	10 (13.7%)	20 (27.4%)	9 (12.3%)	10 (13.7%)	7 (9.6%)
暴力被害	92	2 (2.2%)	4 (4.3%)	4 (4.3%)	5 (5.4%)	9 (9.8%)	25 (27.2%)	11 (12.0%)	17 (18.5%)	10 (10.9%)	5 (5.4%)

※対象：Q1（被害時の年齢）で「わからない」と回答した方（178人）を除く。

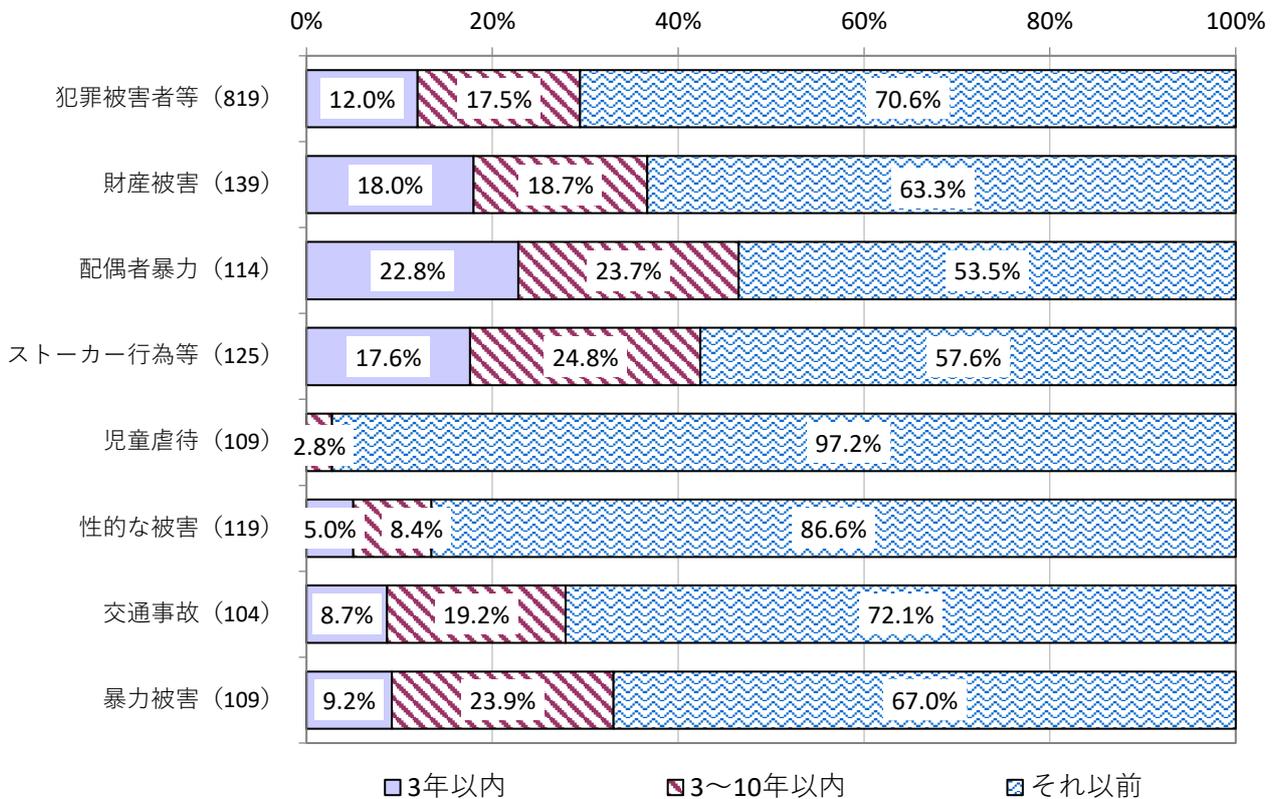
【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

		全体	0～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	19～22歳	23～29歳	30代	40代	50代	60歳以上
性的な被害	痴漢等	80	4 (5.0%)	11 (13.8%)	16 (20.0%)	22 (27.5%)	14 (17.5%)	7 (8.8%)	0 (0.0%)	2 (2.5%)	3 (3.8%)	1 (1.3%)
	無理矢理性交	21	1 (4.8%)	3 (14.3%)	1 (4.8%)	3 (14.3%)	2 (9.5%)	3 (14.3%)	1 (4.8%)	2 (9.5%)	3 (14.3%)	2 (9.5%)
交通事故	けが	67	2 (3.0%)	2 (3.0%)	3 (4.5%)	3 (4.5%)	7 (10.4%)	10 (14.9%)	17 (25.4%)	9 (13.4%)	8 (11.9%)	6 (9.0%)
	死亡	6	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)
暴力被害	けが	81	1 (1.2%)	3 (3.7%)	4 (4.9%)	5 (6.2%)	8 (9.9%)	23 (28.4%)	10 (12.3%)	15 (18.5%)	8 (9.9%)	4 (4.9%)
	死亡	11	1 (9.1%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (9.1%)	2 (18.2%)	1 (9.1%)	2 (18.2%)	2 (18.2%)	1 (9.1%)

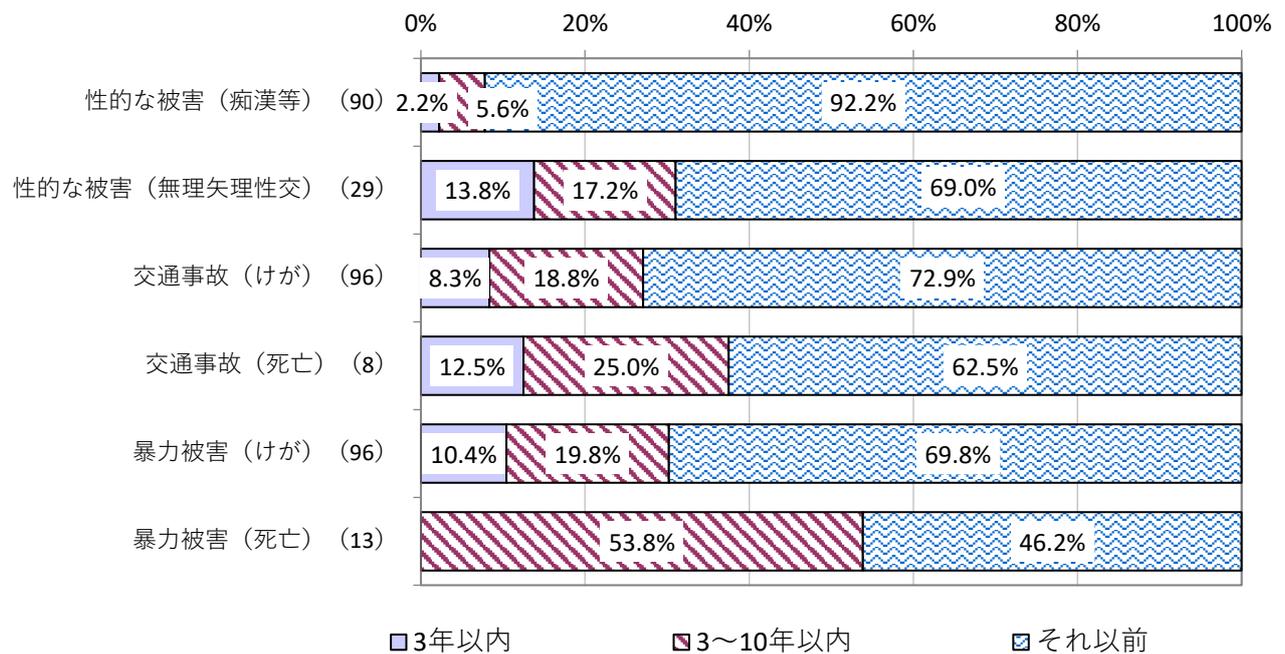
イ. 被害の時期

被害を経験した時期（被害に何度もあっている方は、最も深刻であった被害時期）について、犯罪被害類型別にみると、全ての類型において過去10年より前（「それ以前」）の回答が過半数を占め、特に児童虐待、性的な被害における回答比率が高い（それぞれ97.2%、86.6%）。ストーカー、暴力被害では「3～10年以内」（同24.8%、23.9%）との回答比率が比較的高く、配偶者暴力では「3年以内」（22.8%）との回答比率が比較的高い（図表2-4）。

図表 2-4 犯罪被害類型別、被害の時期【SC1/SC3、SC2】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



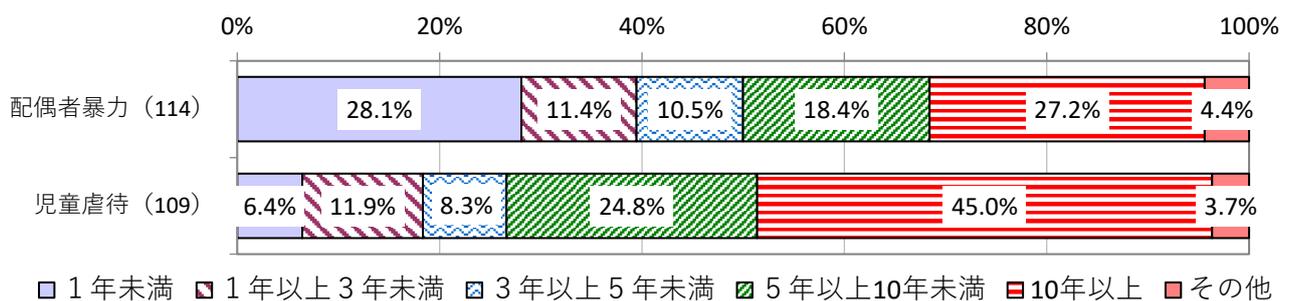
(3) 被害の継続期間

被害の継続期間については、配偶者暴力、児童虐待とそれ以外の類型を異なる選択肢にて尋ねた。

ア. 配偶者暴力、児童虐待

5年以上（「5年以上10年未満」と「10年以上」の和）との回答比率は、配偶者暴力では45.6%、児童虐待では69.8%となっている（図表2-5）。

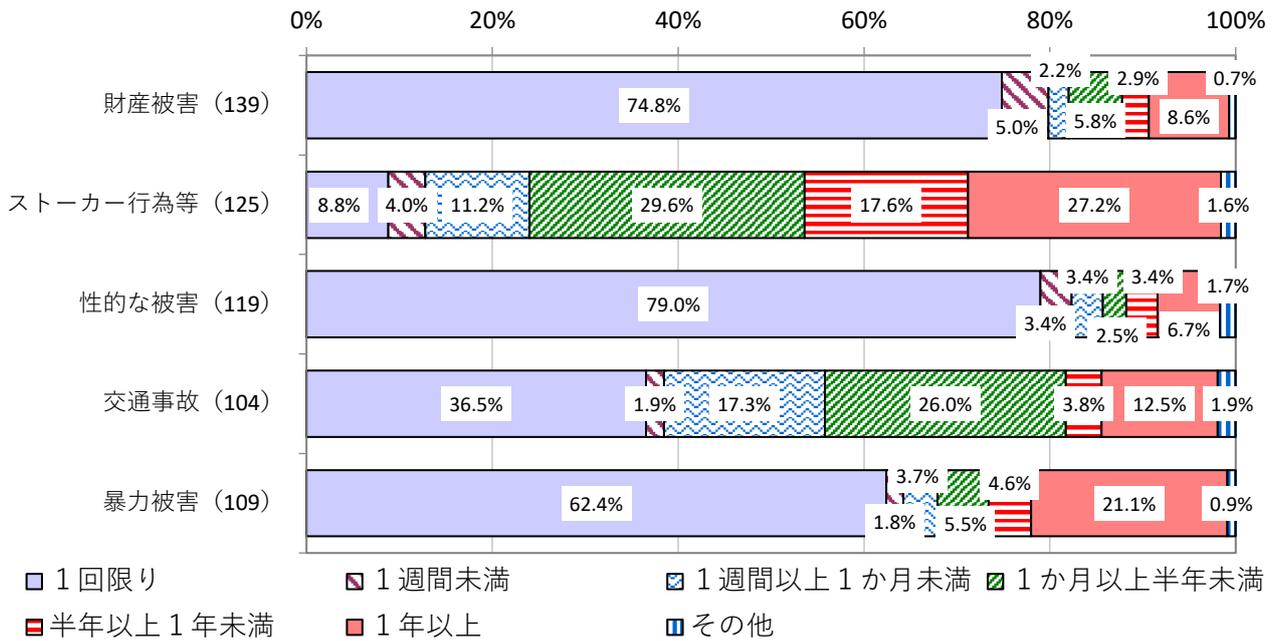
図表 2-5 被害の継続期間_配偶者暴力、児童虐待【SC1/SC3、Q5】



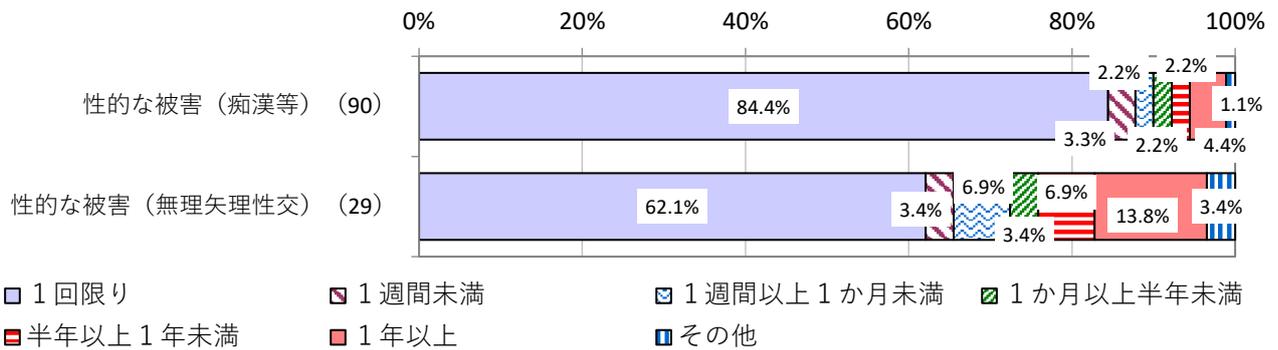
イ. 財産被害、ストーカー、性的な被害、交通事故、暴力被害

ストーカーでは1か月以上（「1か月以上半年未満」と「半年以上1年未満」と「1年以上」の和）との回答比率が74.4%となっている。一方、財産被害、性的な被害、交通事故、暴力被害では、「1回限り」との回答比率が最も高い（図表2-6）。

図表 2-6 被害の継続期間_財産被害、ストーカー、性的な被害、交通事故、暴力被害【SC1/SC3、Q5-2】



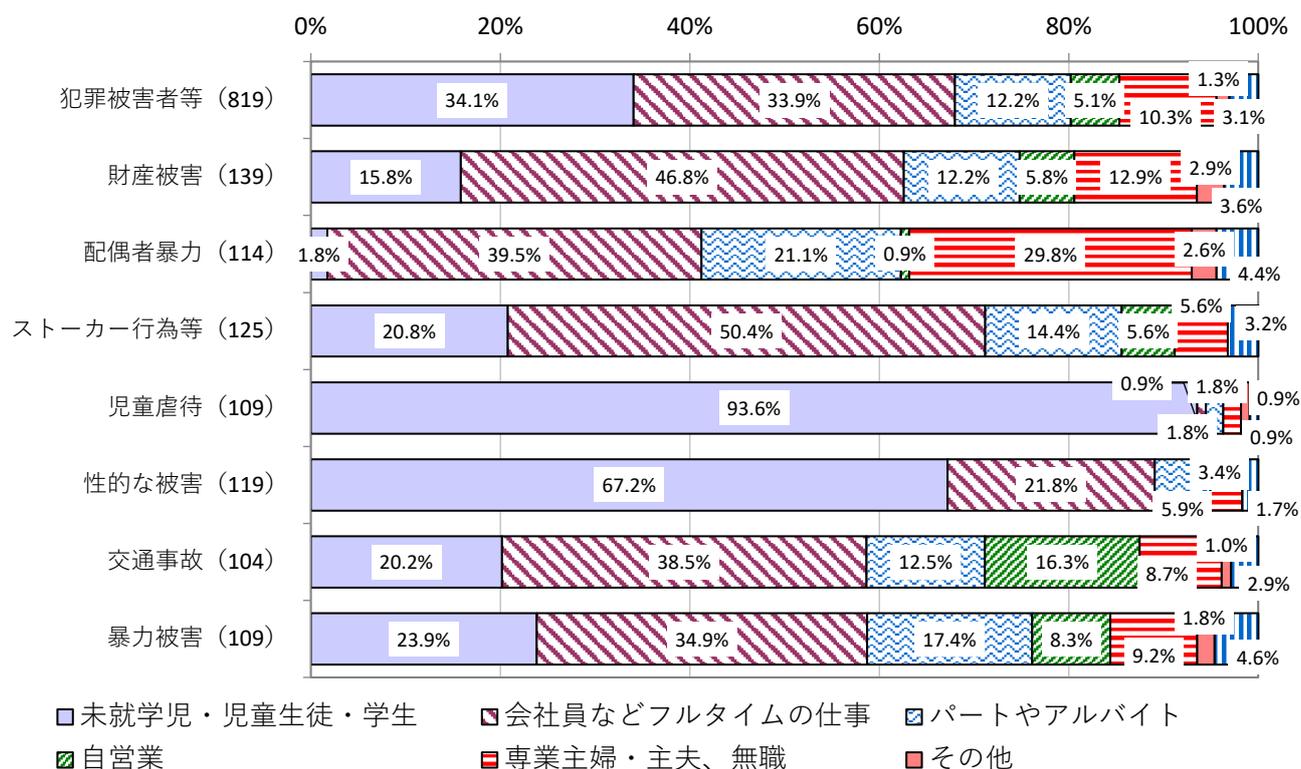
【参考】性的な被害の更なる内訳



(4)被害時の職業

被害時の職業について、犯罪被害類型別にみると、児童虐待では「未就学児・児童生徒・学生」である場合がほとんどを占めており、性的な被害では「未就学児・児童生徒・学生」に加え、「会社員などフルタイムの仕事」との回答が多くなっている。ストーカー、財産被害、交通事故、暴力被害では「会社員などフルタイムの仕事」との回答が多くなっており、配偶者暴力では、「会社員などフルタイムの仕事」に加え、「専業主婦・主夫、無職」「パートやアルバイト」との回答が多くなっている（図表 2-7）。

図表 2-7 犯罪被害類型別、被害時の職業【SC1/SC3、Q6】



(5)被害時の同居状況

被害時の同居相手について、犯罪被害類型別にみると、財産被害では「配偶者」「父」「母」、配偶者暴力では「配偶者」、ストーカー、暴力被害では「父」「母」、児童虐待、性的な被害では「父」「母」「兄弟姉妹」、交通事故では「配偶者」「母」との回答が多くなっている（図表 2-8）。

図表 2-8 犯罪被害類型別、被害時の同居相手（複数回答）【SC1/SC3、Q7】

	全体	配偶者	交際相手	父	母	継父	継母	兄弟姉妹	祖父母	その他の人	同居家族 はいなかった
犯罪被害者等	819	246 (30.0%)	15 (1.8%)	337 (41.1%)	400 (48.8%)	7 (0.9%)	9 (1.1%)	240 (29.3%)	53 (6.5%)	54 (6.6%)	134 (16.4%)
財産被害	139	51 (36.7%)	4 (2.9%)	49 (35.3%)	58 (41.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	28 (20.1%)	4 (2.9%)	11 (7.9%)	24 (17.3%)
配偶者暴力	114	88 (77.2%)	2 (1.8%)	12 (10.5%)	13 (11.4%)	3 (2.6%)	4 (3.5%)	3 (2.6%)	1 (0.9%)	32 (28.1%)	10 (8.8%)
ストーカー行為等	125	33 (26.4%)	2 (1.6%)	43 (34.4%)	56 (44.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	23 (18.4%)	5 (4.0%)	1 (0.8%)	32 (25.6%)
児童虐待	109	1 (0.9%)	1 (0.9%)	81 (74.3%)	96 (88.1%)	2 (1.8%)	4 (3.7%)	80 (73.4%)	16 (14.7%)	1 (0.9%)	4 (3.7%)
性的な被害	119	6 (5.0%)	0 (0.0%)	81 (68.1%)	91 (76.5%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	62 (52.1%)	18 (15.1%)	0 (0.0%)	18 (15.1%)
交通事故	104	43 (41.3%)	2 (1.9%)	28 (26.9%)	37 (35.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (14.4%)	2 (1.9%)	5 (4.8%)	21 (20.2%)
暴力被害	109	24 (22.0%)	4 (3.7%)	43 (39.4%)	49 (45.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	29 (26.6%)	7 (6.4%)	4 (3.7%)	25 (22.9%)

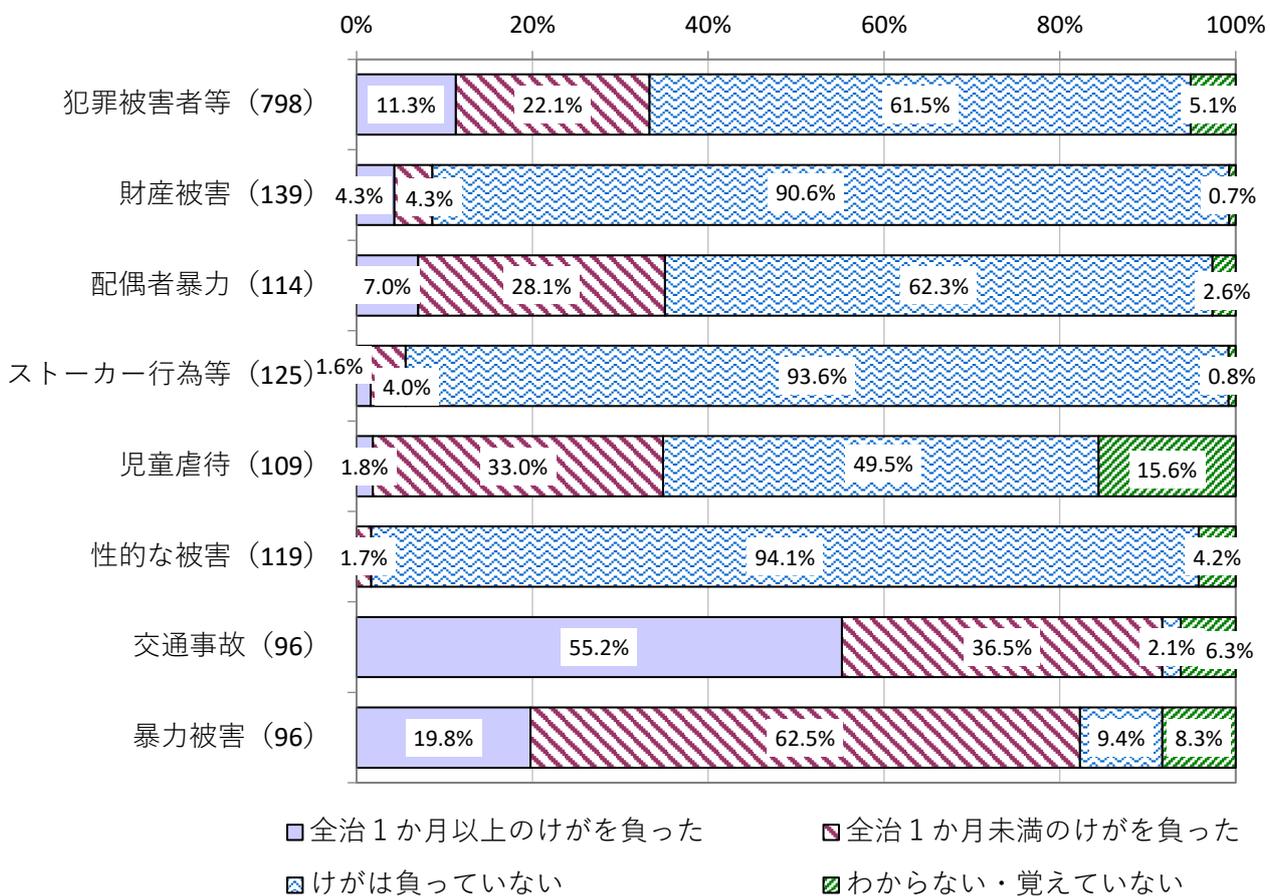
(6)けが・後遺症の状況

被害で負ったけがの状況について、犯罪被害類型別にみると、「全治1か月以上のけが」は交通事故で55.2%、暴力被害で19.8%、「全治1か月未満のけが」は暴力被害で62.5%、交通事故で36.5%、児童虐待で33.0%、配偶者暴力で28.1%となっている（図表2-9）。

後遺症の有無については、「後遺障害等級の認定がなされた後遺症がある」との回答比率は財産被害で33.3%、「後遺障害等級の認定はなされていないが、後遺障害がある」との回答比率は暴力被害で22.8%、児童虐待で18.4%、交通事故で18.2%となっている（図表2-10）。

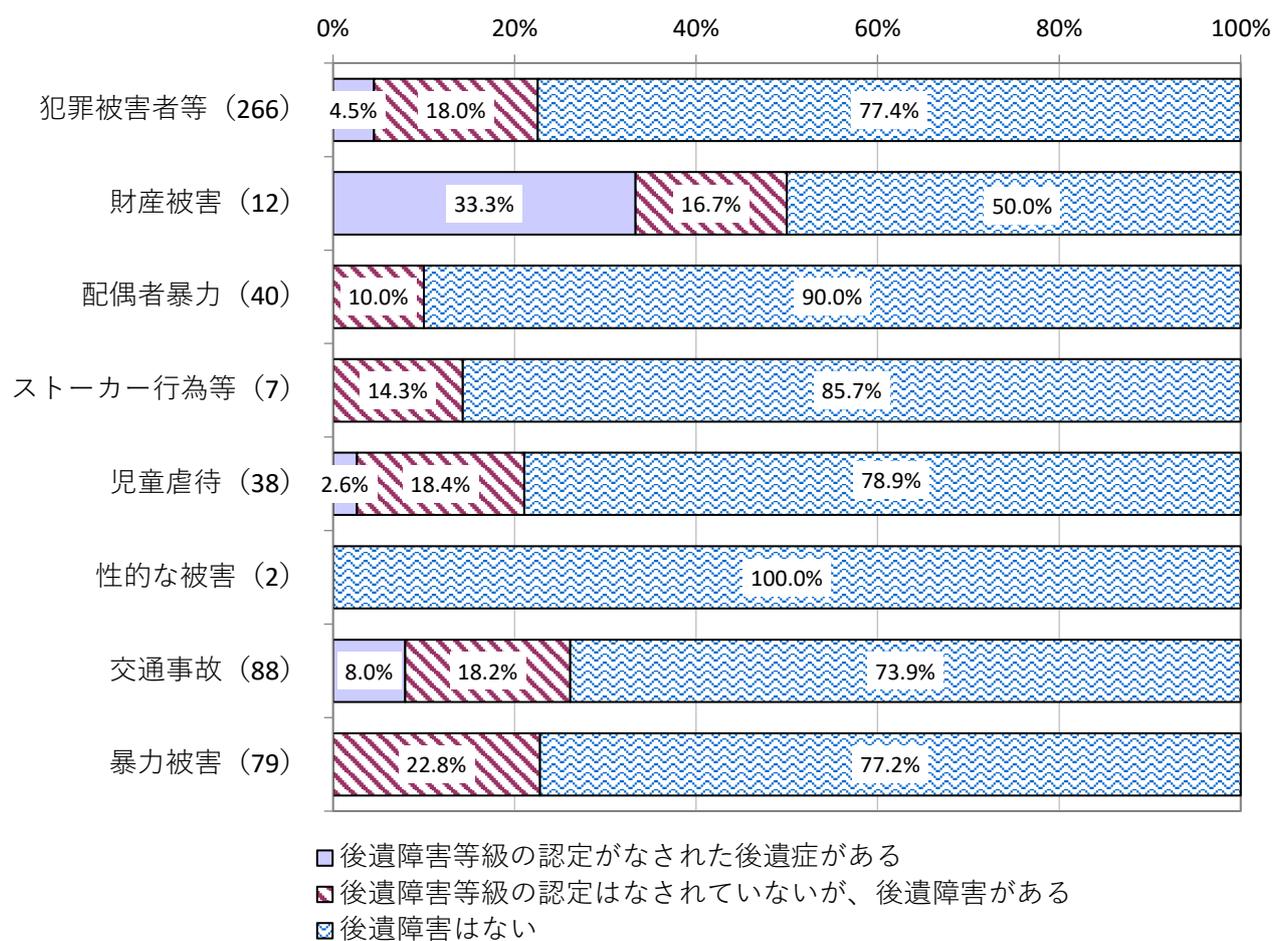
※ただし、本調査では、交通事故及び暴力被害については、自身が被害にあった場合、1週間以上のけがを負っていることを条件としているため、その他の犯罪被害類型と同列に比較はできない（「1-5.調査対象」参照）。

図表 2-9 犯罪被害類型別、けがの有無【SC1/SC3、Q26】



※対象：交通事故及び暴力被害のうち、死亡の場合（21人）を除く。

図表 2-10 犯罪被害類型別、後遺症の有無【SC1/SC3、Q27】



※対象：Q26（けがの有無）で「全治1か月以上のけがを負った」又は「全治1か月未満のけがを負った」と回答した方（266人）のみ。